

## 主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

### メッセージ 8

三一の神は手順を経て究極的に完成して命の霊の法則となり、  
キリストのからだのためにわたしたちの霊の中に組み込まれる

聖書：ローマ 7:15—8:4, 6, 10-11, 16, 28-29, 12:1-2, 11

- I. 三一の神は肉体と成ること、十字架、復活、昇天の手順を経過して究極的に完成し、命の霊の法則となり、「科学的」な法則、すなわち自動的な原理、自然な力として、わたしたちの霊の中に組み込まれました。これは神のエコノミーの中の最大の発見の一つ、さらには最大の回復の一つです——ローマ 8:1-4, 10-11, 34, 16:
- A. ローマ第 8 章の命の霊の法則を享受することは、わたしたちをローマ第 12 章のキリストのからだの実際の中にもたらしめます。わたしたちがからだの中で、からだのために生きる時、この法則は内側で活動します——8:2, 28-29, 12:1-2, 11, ピリピ 1:19。
  - B. キリストのからだの中でのわたしたちの生活と奉仕のすべてのかぎは、わたしたちの内側で活動する命の霊の法則です：
    - 1. 命の霊の法則は、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神とし、神の長子のかたち形成して、ご自身の団体の表現とならせず——ローマ 8:2, 28-29。
    - 2. 命の霊の法則は、わたしたちをキリストのからだの肢体に構成し、あらゆる種類の機能を持たせず——エペソ 4:11-12, 16。
- II. 内住のキリストを命の霊の法則として経験するためには、ローマ第 7 章と第 8 章の三つの命と四つの法則を見る必要があります：
- A. 創造された人の命と善の法則は、わたしたちの魂の中にあります。この法則は天然の人の命から、すなわち、人自身から出ています——7:21-23, 創 1:31, 伝 7:29。
  - B. 悪のサタン的な命と罪と死の法則は、わたしたちの肉の中にあります。この法則はサタンから、すなわち、信者の肉の中に住んでいる罪から出ています——ローマ 6:6, 7:15-20, 23-24, I ヨハネ 3:10, ヨハネ 8:44, マタイ 13:38, 23:33, 3:7, ローマ 3:13。
  - C. 非受造の神聖な命と命の霊の法則は、わたしたちの人の霊の中にあります。この法則は神から、すなわち、人の霊の中に住んでいるその霊から出ています——8:2, 9-10, 16, ヨハネ 1:4, 10:10 後半, 14:6 前半, I コリント 15:45 後半：
    - 1. すべての命には法則があり、命は法則でさえあります。神の命は最高の命であり、この命の法則は最高の法則です——参照、ヨハネ 1:4-5, 12:24, 14:6 前半, 10:10 後半, I コリント 15:45 後半。
    - 2. 命の霊の法則は、神聖な命の自動的な原理、自然な力です。それは神聖な命の自然な特性であり、本来備わっている、自動的な機能です——ローマ 12:2, ピリピ 2:13, エゼキエル 36:26-27, イザヤ 40:28-31, ヘブル 12:2 前半, ピリピ 4:13, コロサイ 1:28-29, 参照、箴 30:18-19。
    - 3. わたしたちが主の中へと信じることによって主を受け入れたとき、彼は命の霊の法則として機能して、ご自身を神の神聖な、非受造の命（ギリシャ語、「ゾーエ (zoe)」）として、わたしたちの霊の中へと分与しました。わたしたちはみな、以下の偉大な啓示を見る必要があります。すなわち、わたしたちの存在の少なくとも一つの部分、わたしたちの霊はゾーエです——ローマ 8:10。
    - 4. わたしたちが思いを霊に付けるとき、わたしたちの魂を代表する思いはゾーエとなります（6 節）。さらに、命の霊の法則の活動を通して、ゾーエはわたしたちの死ぬべき体にも分け与えられることができます（11 節）。このようにして、わたしたちは三部分から成る存在全体においてゾーエの人となり、ゾーエの都、すなわち新エルサレムとなります（啓 21:6, 22:1-2, 7, 14）。

5. 究極的に、この命はわたしたちを備えてキリストの花嫁とならせ、主が戻って来て、わたしたちを次の時代へともたすようにします。こういうわけで、聖書と宇宙の極めて重要な焦点は、ローマ第8章にあります。

D. 信者の中のこの三つの法則に加えて、神の律法（法則）が信者の外にあります——ローマ 7:22, 25。

**III. わたしたちは、主と会話し、わたしたちと彼との交わりを維持することによって、命の霊の法則としての、内住する、組み込まれた、自動的な、内側で活動する神と協力しなければなりません。神と接触する祈りは、心から真実に語られた言葉から成っています——ローマ 10:12-13. 創 13:18. I テサロニケ 5:17. エペソ 6:17-18. ピリピ 4:5-7, 12-13. 詩 62:7-8:**

A. ある詩歌は、「わたしの本当の状態」（詩歌 724 番、全訳）と言っています。これが意味するのは、わたしたちが自分の本当の状態のまま神に来て、自分の状態を改善したり変えたりしようとしないうことです。わたしたちはこのようにキリストを受け入れました。そしてこのようにキリストの中で歩くべきです——コロサイ 2:6-7 前半。

B. 祈ることは、わたしたちの本当の状態のままで主に来ることです。わたしたちは主に来るとき、自分の内なる状態を彼の御前に置いて、自分があらゆる事柄で欠けていることを彼に告げるべきです。たとえわたしたちが弱く、混乱し、悲しみ、言うことがなくても、依然として神に来ることができます。わたしたちの内なる状態がどうであっても、わたしたちはそれを神にもたさすべきです。

C. わたしたちは自分の状態について顧慮するのではなく、神を仰ぎ、神を見つめ、神を賛美し、神に感謝をささげ、神を礼拝し、神を吸収することによって、神の臨在の中へと入り、神と接触する必要があります。そしてわたしたちは神の豊富を享受し、神の甘さを味わい、神を光また力として受け入れ、内側で平安で、明るく、強く、力づけられます。わたしたちは聖徒たちに言葉を供給しているとき、彼に結合され続けるという学課を学びます——I ペテロ 4:10-11. II コリント 2:17. 13:3。

D. 主の麗しさを見つめることに加えて、わたしたちは彼を尋ね求める必要があります（詩 27:4）。尋ね求めるとは、わたしたちの日常生活のあらゆることを彼に相談することです。神の民は夫である彼と共に生きて、いつも彼に依り頼み、彼と一であるべきです（ヨシュア 9:14. 歴代下 20:1-5, 12-27）。

E. わたしたちは悲しい、沈んだ、失望させる状況にいるかもしれませんが、わたしたちは問題を主の御前に持ち出して、それらについて彼に告げるべきです。彼は最上の聞き手です。彼はわたしたちの感情を知り、わたしたちの心に同情してくださいます。彼はわたしたちを慰め、わたしたちを助けることができます。

F. わたしたちは主と徹底的な会話を持ち、わたしたちの心を主に注ぎ出すとき、主との親密さは一步前進し、彼をもう少し知るようになることを認識すべきです。このような時の主との親密な接触は、彼との通常の交わりより何百倍も良いのです。このような接触によって、わたしたちは命において成長します——詩 62:6-8. 56:8. 参照、サムエル上 1:15。

G. 主の御前で涙を流したことがなく、自分の喜びや悲しみを主と共有したことがなく、私的な事柄について主と話したことがないなら、その人は主との親密な交わりを持ったことがなく、主と深く知り合ったことがありません。その人は、主にあらゆることを告げることを通してのみ、主にさらに近づくことができます。

H. 彼はわたしたちの問題の一つ残らず同情されます。わたしたちの主は、喜んでわたしたちのすべての思い煩いを担い、わたしたちが語るのを聞くことで幸いです。わたしたちは彼を生ける命の水として享受するために、わたしたちの霊の岩としての彼に語る必要があります——民 20:8. I コリント 10:4. 出 17:6. 詩歌 202 番。

I. 詩篇第 102 篇の表題は、「苦しむ者の祈り。彼が弱まり、自分の苦しい情態をエホバの御前に吐き出しているとき」と言います。わたしたちは神に対して苦情を言うかもしれませんが、わたしたちの苦情は最上の祈り、神にとって最も喜ばしい祈りであるかもし

れません。わたしたちが苦情を言っている間、神は喜んでいます。なぜなら、神はすべてを共に働かせて益とし、わたしたちがご自身の長子のかたちに同形化されるようにしているからです——ローマ 8:28-29。

J. 詩篇第 73 篇は、尋ね求める詩篇の作者の切実な祈りの記録です。彼は自分自身の苦難のゆえに、また悪しき者の繁栄のゆえにつまずきそうになっていました。彼は、自分はむなしく心をきよめた、なぜなら物質の繁栄を享受するのではなく、終日、災難に遭い、朝ごとに懲らしめを受けているからであると考えました——12-16 節：

1. 悪しき者の繁栄に関する詩篇の作者の困惑の解答は、神の聖なる所で得られました。第一に、神の聖なる所、彼の住まいはわたしたちの霊の中にあり（エペソ 2:22）、第二に、それは召会です（I テモテ 3:15）。神の聖なる所へと行くことは、わたしたちの霊に戻り、召会の集会と務めの集会に行くことです。わたしたちの霊の中と召会の中で、わたしたちは神聖な啓示を受け、すべての問題の説明を得ます（詩 73:17）。
2. 主との正直な会話、また神の聖なる所へと入ることを通して、主を尋ね求める者は最終的に主によって照らされて、主に以下のように言うことができるようになりました、「わたしは天でああなたのほかにだれを持つでしょう？地ではあなたのほかに慕うものはありません。わたしの肉と心は衰えますが、神は永遠にわたしの心の岩、わたしの分け前です」——詩 73:25-26。
3. 神を尋ね求める者に対する彼の意図は、彼らがキリストの中にあらゆるものを見だし、キリストを絶対的に享受することからそらされないということです。神のエコノミーにおける彼の究極の願いは、わたしたちがキリストを生き、キリストを大きく表現し、キリストを獲得することであり、それは召会における彼の栄光のためです——ピリピ 1:19-21 前半、3:7-8、イザヤ 43:7、I コリント 10:31、6:20、I ペテロ 4:11、エペソ 3:16-21。

IV. わたしたちが霊の内なる感覚に注意するとき、命の霊の法則はわたしたちの中で活動的になります。わたしたちがみな学ばなければならないクリスチャン生活の秘訣は、ローマ第 8 章 6 節に見いだされます。この節は、命の霊の法則としてのキリストに対するわたしたちの霊的な経験に関する、聖書における最も重要な節です——「肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です」：

- A. 思いを肉に付けることは、肉の側に付き、肉と協力し、肉と共に立つことを意味します。思いを霊に付けることは、霊に注意し、霊の側に付き、霊と協力し、霊と共に立つ、すなわち、わたしたちの霊に注意を払うことです——マラキ 2:15-16。
- B. わたしたちは霊の内なる感覚に注意し、命と平安の内なる感覚に従うなら、主を彼の唯一の行動のために、からだのかしらとして尊びます。使徒パウロは彼の福音の奉仕において、キリストのとりこであり、彼の外なる環境によって支配されたのではなく、彼は「わたしの霊には安息」があるかどうかによって支配されました（II コリント 2:13）。彼の霊は彼の存在の最も主要な部分であり、彼は彼のミングリングされた霊によって管理され、支配され、方向づけられ、動かされ、導かれました（I コリント 2:15、ローマ 8:16、I コリント 6:17、II コリント 2:12-14）。

V. 究極的に、わたしたちが命の霊の内住する自動的な法則を享受することは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためであり、その享受の目標は、わたしたちを神格においてではなく、命、性質、表現において神とならせ、彼の永遠のエコノミーの目標である新エルサレムを完成することです——ローマ 8:2、28-29、12:1-2、11:36、16:27、ピリピ 1:19、参照、ガラテヤ 1:15-16、2:20、4:19、26-28、31、啓 21:2、9-10。

